

令和元年5月18日現在

機関番号：12501

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2016～2018

課題番号：16K14996

研究課題名(和文) インバウンド時代の農村ツーリズムとホスピタリティの効率性評価経済学の基礎構築

研究課題名(英文) Efficiency evaluation of rural tourism and hospitality activities

研究代表者

大江 靖雄(OE, YASUO)

千葉大学・大学院園芸学研究科・教授

研究者番号：60302535

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、インバウンド時代となり、これまで十分評価が行われていない我が国の特に農村部における観光活動について、そのホスピタリティを考慮して、その効率性およびそれに作用する経営的および経営外の要因を解析すべく、実証的かつ計量的な研究を行った。その結果、中国人観光客の場合では、日本のおもてなしを評価しており、リピーター化していること、また全国の国際観光旅館を対象とした経営効率性を計測し、リーマンショック後の回復過程が小規模経営で遅く、効率性が拡大していることが判明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、これまで行われていない主に農村地域を対象とした観光事業体の効率性について、計量的モデルにより評価した。その際、これまで農業分野では十分考慮されてこなかった、ホスピタリティの観点から、食と農に関わる観光・ホスピタリティ経営活動に作用する経営的要因。経営外の要因について解析を行った点で、その社会的な意義がある。特に、経営者が観光活動にふさわしいアイデンティティを形成することが経営の効率性に重要であることを明らかにした点での意義は大きく、世界的にも例のない研究成果である。

研究成果の概要(英文)：This study address the efficiency of tourism and hospitality activities mainly in rural areas and investigated factors working on that under the inbound promotion period because the efficiency of these activities has not been conceptually and empirically evaluated. The study results revealed that Chinese tourists positively evaluated Japanese Hospitality and come back again. From the estimation results of efficiency of Japanese Ryokan facilities, it was clarified that the gap between large and small sized ryokans were widening after the Lehman shock due to the slower recovery among the small sized than the large size

研究分野：農業経済学

キーワード：農村ツーリズム 効率性 ホスピタリティ 社会的学習 ネットワーク 農村レストラン

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

我が国では、観光立国が政策目標とされ、外国人観光客、いわゆるインバウンド観光の振興が図られている。その結果、有名観光地には外国人観光客が押し寄せているものの、一般の純農村部では、いかに外国人観光客を引き寄せるのが重要な課題となっている。他方で、農村部における食と農に関する観光・ホスピタリティ活動の効率性に関する実証分析は、はなはだ不十分である。今後の農村部におけるインバウンド観光振興とその持続的発展にとって経営効率性を明らかにすることは、その振興策の設計に必要な条件といえる。

### 2. 研究の目的

本研究課題では、これまで本格的な分析が行われてこなかった、我が国の主として農村部における食と農に関する観光・ホスピタリティ活動の効率性に作用する経営的要因や経営外要因について実証的・計量的に解明するとともに、効率性に作用する経営者のアイデンティティの問題にも分析を加えて、より効率的な経営に向けた課題を展望する。

### 3. 研究の方法

本研究課題では、農村部を中心とする食と農に関する観光・ホスピタリティ活動の効率性に関する経営的要因および経営外要因について、訪問聞き取り調査、web アンケート調査などによりデータを経営者から収集して、統計的な分析手法により実証的に解析するとともに、我が国独特の宿泊施設である旅館の効率性を計測して、その変化の実態を明らかにする。さらに、経営者のアイデンティティの違いにより経営効率性に、どのような違いがあるのかを計量的に解明する。

### 4. 研究成果

- (1) 我が国のインバウンド観光需要で最も大きなシェアを占める来日中国人観光客に対して、地方空港である茨城空港を利用する上海からの来日便乗客を対象に、日本のおもてなしに対する面接法によるアンケート調査を行い、日本のおもてなし要因として、親近感、過ごしやすさ、効率の良さ、丁寧さの4つの要因で構成されると考え、その印象変化を訊ねた。このアンケート調査結果から、訪日旅行回数を被説明変数とするポアソン回帰分析を適用して解析した。計測結果から、日本のおもてなしに対する印象変化は、4つの要因においてそれぞれ正で有意な結果となり、中国人旅行者の訪日回数を促進する要因として、日本流のおもてなしが大きく作用していることが示された。
- (2) 我が国独特のホスピタリティを提供する旅館の経営効率性について、WindowDEA という時系列の評価が可能なモデルで比較を行った。その結果、リーマンショックや東日本大震災以後、特に、小規模経営では効率性が低下しており、経営規模間での格差が拡大していることを実証した。地域別にみると、北海道が最も効率的であり、その原因として魅力的な観光資源の存在や外国人観光客の増加があることを指摘した。今後の支援策としては、小規模経営に対する経営能力向上の取り組みが重要といえる。
- (3) 農村レストラン経営者への web アンケートの結果から、その経営者意識を条件付きロジットモデルにより解析した結果、メニュー・おいしさ・外装やインテリアを重視し、かつ、リピーターが多い点で「顧客が満足する経営」への指向を有すると考えられるレストラン経営者の満足度が高いということを、統計的に検証した。特に、食事のおいしさは経営者の経営満足度に、最も影響を与えている要因であることが判明した。
- (4) 鳥取県智頭町における森林セラピーリズムを対象として、その生理的・心理的效果について、実証した結果、森林セラピープログラムの参加により血圧の低下とその効果が数日継続すること、そして心理面でのストレス軽減の効果がみられ、その効果も数日継続することを、解明した。しかし、高齢化の進展で、新たな民泊世帯の確保が困難になってきている。その対策として、新規移住者の民泊提供、都市部の企業による研修プログラムの実施、他地域の温泉地域との広域連携などが試みられていることが明らかとなった。
- (5) 酪農教育ファームの後継者世代を対象としたアンケート調査結果から、DEAモデルを構築して、酪農教育ファームの活動水準と酪農生産との二つの部門を考慮した経営効率性の評価を行った。その結果、酪農教育ファームの活動水準の高い経営ほど経営効率性の高いことが判明した。この違いは、経営者のアイデンティティの違いに起因すると考えられる。
- (6) 東日本大震災での被災した農家民宿を含む東方地域の宿泊施設へのアンケート調査結果から、営業再開に至る要因について、計量的な解析を行った。その結果、個人・家屋経営であるほど営業再開に時間がかかること、また復興工事関係者の受け入れしているほど、宿泊高速道路 IC からの距離が短いほど再開が早いことが判明した。今後、復興需要が縮小する中で、オリジナルな地域資源を活用した活動や、ダークツーリズムなどの教育的活動の重要性が増すと考える。
- (7) 東京スカイツリー周辺に立地する飲食店への、スカイツリー開業による飲食店の経営面への効果について経営者へのアンケート調査結果から、計量的に解析した結果、400m 圏内で経営上の便益をより受けていることが判明した。また、ネット系の食べログや SNS 等の利

- 用の有効性が確認されたため、新しいメディア活用も新規客獲得に有用であるといえる。
- (8) 農村ツーリズムにおける女性の役割について考察して、農村ツーリズム発展にとって女性の感性や能力が、農村ツーリズムにより発揮開花されることを明らかにするとともに、家事育児の負担から女性農業者の満足度が男性に比べて低いことを指摘した。
  - (9) NPOによるコミュニティ・ベースな農村ツーリズムの取り組みについて、宮城県栗原市の事例分析を基に、地域の生活文化に基づく体験活動の開発と提供で、地域内外のネットワークを構築しているその特徴と課題を明らかにした。
  - (10) 酒蔵を活用した酒蔵ツーリズムを実施している酒蔵へのアンケート調査結果に基づき、経営者の意識とそれに作用する経営的要因を順序ロジットモデルで計測を行った結果、酒蔵の規模により、その姿勢が異なり、小規模酒蔵の方がよりツーリズムに積極的であることが判明した。
  - (11) 旧八幡製鉄に代表される産業観光で有名な北九州市を対象として、産業観光に対する認知度を福岡市内でのアンケート調査結果から順序ロジットモデルにより計量的に分析して、その標的需要層の特徴として文化的な事柄に関心の深い市民層であることが判明した。
  - (12) 有機農産物を食材としている飲食店(有機レストラン)へのアンケート調査結果に基づき、レストラン経営に関して、主観的な経営状況評価、客観的なその回転率、および有機食材の使用割合について、計量的に解析した結果、一般的な飲食店と同様、立地条件・味・メニューなどの要因が経営状況にとって重要であること、回転率では女性へのターゲティングや経営者の有機食材への意識の高さなど、特有の要因が作用していることが判明した。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 25 件)

1. 大江靖雄, プロダクト・アウト型からマーケット・イン型農村ツーリズムへ, 食と緑の科学 HortResearch, 査読有, 73, 2019, 8-9
2. 大江靖雄, Claude Origet du Cluzeau, Adriano Ciani and Leena Rantamäki-Lahtinen, 欧州3ヶ国における食育政策と食品企業等の食育活動 イタリア・フランス・フィンランドを対象として, 食と緑の科学 HortResearch, 査読有, 73, 2019, 15-29
3. Bhatta Kumar Prasad and Yasuo Ohe, Farmers' willingness to establish community-based agritourism: Evidence from Phikuri village, Nepal, Proceedings of 24th Asia Pacific Tourism Association Conference, Cebu, Philippines, 査読有, 2018, 205-217
4. Yasuo Ohe, On the relationship between operator's identity and efficiency in dairy farms performing educational tourism: An application of slacks-based measure DEA models, Proceedings of 24th Asia Pacific Tourism Association Conference, Cebu, Philippines, 査読有, 2018, 591-608
5. 大江靖雄, 農村ツーリズムと女性 - 経営政策の視点から, 農村計画学会誌, 査読有, 37(1), 2018, 29-32
6. 雷亦可・大江靖雄, 有機食材を用いた飲食店の経営行動と意識, 農業経営研究, 査読有, 56(3), 2018, 68-73
7. 赤松香苗・大江靖雄, 産業観光に対する認知度と需要標的層 北九州市を対象として, 総合観光研究, 査読有, 16・17, 2018, 23-28
8. 三瓶李奈・大江靖雄, 酒蔵ツーリズムの展開と経営者意識, 総合観光研究, 査読有, 16・17, 2018, 29-34
9. Yasuo Ohe, Assessing Managerial Efficiency of Educational Tourism in Agriculture: Case of Dairy Farms in Japan, Sustainability, 査読有, 9, 2017, 1931-1931 DOI: 10.3390/su9111931
10. Yasuo Ohe, Educational tourism in agriculture and identity of farm successors, Tourism Economics, 査読有, 24, 2017, 167-184 DOI: 10.1177/1354816617729021
11. Yasuo Ohe, Harumi Ikei, Song Chorong and Yoshifumi Miyazaki, Evaluating the relaxation effects of emerging forest-therapy tourism: A multidisciplinary approach, Tourism Management, 査読有, 62, 2017, 322-334 DOI: 10.1016/j.tourman.2017.04.010
12. Yasuo Ohe, Integrating Role of Non-profit Organizations (NPOs) in Rural Tourism Development: evidence from Chiba, Japan, Conference Proceedings The 9th ASAE International Conference 2017, 査読有, 2017, 466-477
13. Yasuo Ohe, Effects of social media on tourism recovery in a tsunami hit rural area in northern Japan, Abstract Proceedings 23rd Asia Pacific Tourism Association Conference, 査読有, 2017, 226-229
14. Yasuo Ohe, Identity Formation of Farm Successors and Diversification of Dairy Farm Activities, Proceedings XV EAAE Congress 2017, 査読有, 2017, 1-15
15. 工藤亜稀・大江靖雄, 震災被災地における宿泊業の復興と経営意欲に及ぼす要因分析 岩手・宮城を対象として, 農業経営研究, 査読有, 55(2), 2017, 57-62

16. 近藤莉夏子・大江靖雄, スカイツリー周辺地域における飲食店の集客要因分析, 農林業問題研究, 査読有, 53(3), 2017, 131-138
17. 佐藤龍一・大江靖雄, 高齢者の買物環境と生活満足度 東京都多摩ニュータウン地域を対象として, 農林業問題研究, 査読有, 53(4), 2017, 209-214
18. Yasuo Ohe, Can community-based rural tourism survive under a super-ageing society?: Challenges of an agrarian community in Japan, Journal of Global Tourism Research, 査読有, 1(1), 2016, 5-8
19. Yasuo Ohe, Technical efficiency in dairy farms conducting educational tourism: an approach by stochastic frontier production function, International Journal of Sustainable Development and Planning, 11(3), 2016, 458-468  
DOI: 10.2495/SDP-V11-N3-458-468
20. Yasuo Ohe and Nicolas Peypoch, Efficiency analysis of Japanese Ryokans: a Window DEA approach, Tourism Economics, 査読有, 22(6), 2016, 1261-1273  
DOI: 10.1177/1354816616670505
21. 霜浦森平・大江靖雄, ワインツーリズム訪問客の地域観光資源評価に関する分析 「ワインツーリズム山梨」を事例として, 農業経済研究, 査読有, 88(2), 2016, 200-205
22. 小西智子・大江靖雄, 農家レストラン経営者の満足度とその要因 ウェブサーベイによる条件付きロジット分析, 農林業問題研究, 査読有, 52(4), 2016, 199-204  
DOI: org/10.7310/arfe.52.199
23. Yasuo Ohe, Community-based rural tourism in super-ageing Japan: challenges and evolution, nais Brasileiros de Estudos Tur&iacutesticos; ABET, 査読有, 6(1), 2016, 28-41
24. 大平澄佳・大江靖雄, 日本のおもてなしと中国人旅行者の訪日回数との関連性を探る, 日本観光学会誌, 査読有, 57, 2016, 30-34
25. 王丹丹・大江靖雄, 韓流による民族観光事業経営者の生活満足度への影響に関する分析 延辺朝鮮族自治州の延吉市を対象として, 日本観光学会誌, 査読有, 57, 2016, 30-34

[学会発表](計44件)

1. Yasuo Ohe, Community-based tourism in rural Japan: Case of network making NPO, 8th International Conference on Sustainable Tourism, Vienna, Austria, 2018
2. Fukui Miho and Yasuo Ohe, Assessing the role of social media on tourism recovery in Tsunami hit coastal areas in Tohoku, JAPAN, 6th QATEM Quantitative Approaches to Tourism Economics and Management, University of French Polynesia, Tahiti, French Polynesia, 2018
3. Bhatta Kumar Prasad and Yasuo Ohe, Farmers' willingness to establish community-based agritourism: Evidence from Phikuri village, Nepal, 24th Asia Pacific Tourism Association Conference, Cebu, Philippines, 2018
4. Yasuo Ohe, On the relationship between operator's identity and efficiency in dairy farms performing educational tourism: An application of slacks-based measure DEA models, 24th Asia Pacific Tourism Association Conference, Cebu, Philippines, 2018
5. 河原崎滉一郎・大江靖雄, 若年層中国人の北海道産銘菓に関するオンライン購買行動と訪日経験, 日本観光学会関東支部会(2018年度), 実践女子大学, 2018
6. Yasuo Ohe, Does farmer's identity make a difference in efficiency in dairy farms conducting educational tourism? Evaluation by slacksbased measure DEA, 30th International Conference of Agricultural Economists, Vancouver, Canada, 2018
7. Yasuo Ohe, Assessing the connection between operator's identity and efficiency in dairy farms performing educational tourism: A DEA approach, 68th AIEST Conference Abstract Book, 17, Treviso, Italy, 2018
8. Yasuo Ohe, Ruolo e limitazioni del turismo volontario nel recupero dai disastri naturali, Biosphera Conferenceza Internazionale Pace Turismo Sviluppo Sostenibile, Perugia, Italy, 2018
9. Yasuo Ohe, A new policy framework called "Nagisa-haku" fishing-village stay program in Japan: Aims and challenges, Jeolla International Tourism Conference 2018, Mokpo, Korea, 2018
10. Yasuo Ohe, Roles of NPO in community-based rural tourism: Evidence from Japan, 1st World Congress on Agritourism, Bolzano, Italy, 2018
11. Bhatta Kumar Prasad and Yasuo Ohe, Potentials for agritourism development in Nepal: A case study of Phikuri village, 1st World Congress on Agritourism, Bolzano, Italy, 2018
12. Ciani Adriano, Yasuo Ohe and Mgowa Fidelis Chasukwa, Agritourism: Why characterize, defend and promote it in the world, 1st World Congress on Agritourism, Bolzano, Italy, 2018

13. Yasuo Ohe, Integrating Role of Non-profit Organizations(NPOs) in Rural Tourism Development: Evidence from Chiba, JAPAN, The 9th International Conference of the Asian Society of Agricultural Economists, 2017
14. Yasuo Ohe, Community-based Tourism in Japan: Facts and Challenges, The 1st International Conference & Exhibition on Community Based Tourism in Phuket, 2017
15. Yasuo Ohe, Community-based Tourism: A Case in Japan, International Workshop : Sustainable Tourism for Development, 2017
16. Yasuo Ohe, Identity Formation of Farm Successors and Diversification of Dairy Farm Activities, Poster at XV EEAE Congress 2017, 2017
17. Yasuo Ohe, Takashi Ishida and Seiichi Sakurai Outline of Food Education Program in Japan, The Finnish School Meal Network's International Seminar, 2017
18. Shohei Kurata, Yasuo Ohe, Competitive Structure of Accommodations in A Japanese Onsen (Hot Springs) Resort Area: A Spatial Econometric Approach, Book of Abstract 6th Conference International Association for Tourism Economics, 2017
19. Miho Fukui and Yasuo Ohe, Accessing the role of social media on tourism recovery in tsunami hit coastal areas in Tohoku, Japan, 67th AEST Conference, 2017
20. 大江靖雄, 都市住民が農村で過ごすアグリツーリズムの特徴と課題 イタリアの滞在型ツーリズムから , いすみ市平成 29 年度農泊・グリーンツーリズム推進体制整備業務報告, 2017
21. 大江靖雄, わが国酪農経営の多角化と経営効率性に関する実証分析, 平成 29 年度「乳の学術連合」研究報告会, 2017
22. 雷亦可, 大江靖雄, 有機食材を用いた飲食店の経営行動と意識, 平成 29 年度日本農業経営学会研究大会報告, 2017
23. 三津山京, 大江靖雄, 茶販売事業者の多角的事業展開への意識と要因 静岡県を対象として , 平成 29 年度日本農業経営学会研究大会報告, 2017
24. 奥本夏実, 大江靖雄, 米ギフトの購入頻度とその要因 市場拡大は可能か? , 平成 29 年度日本農業経営学会研究大会報告, 2017
25. 大江靖雄, イタリア・アグリツーリズムから学ぶ我が国農村ツーリズムの課題, 第 40 回翠葉会秋季総会報告, 2017
26. 赤松香苗, 大江靖雄, 産業観光に対する認知度と需要標的層 北九州市を対象として , 総合観光学会第 32 回全国学術研究大会, 2017
27. 大江靖雄, 酪農教育ファームにおける多角化と経営効率性, 日本観光学会第 111 回全国大会 in 熊本, 2017
28. 大江靖雄, 農泊とコミュニティ・ベースツーリズムの取り組みと課題, 一般財団法人漁港漁場漁村総合研究所第 11 回調査研究成果発表会, 2017
29. 三瓶李奈・大江靖雄, 酒蔵ツーリズムの展開と経営者意識, 日本観光学会関東支部会, 実践女子大学(東京都、渋谷区), 2017
30. Yasuo Ohe, Technical Efficiency in Dairy Farms Conducting Educational Tourism: An Approach by Stochastic Frontier Production Function, 7th International Conference on Sustainable Tourism, Valencia, Spain, 2016
31. Yasuo Ohe, Opportunities and Challenges of Emerging Forest-Therapy Tourism: Evidence from Japan, 22nd Asia Pacific Tourism Association Conference, Beijing, China, 2016
32. Yasuo Ohe, Educational Tourism in Agriculture and Identity of Farm Successors, 5th QATEM Workshop Quantitative Economics and Management, Potchefstroom, South Africa, 2016
33. Yasuo Ohe, Current Issues of Rural Tourism Research, Erasmus Plus Program 2016, Thessaloniki, Greece, 2016
34. Shohei Kurata and Yasuo Ohe, Spatial Econometric Evaluation of Competitive Structure in a Traditional Onsen(Hot Springs) Resort Area in Japan, 66th AEST Conference, San Anton, Malta, 2016
35. 王丹丹・大江靖雄, 「韓流」の中国民俗観光事業経営者の生活満足度への影響評価 延辺朝鮮族自治州の延吉市を対象として , 日本観光学会第 109 回全国大会プログラム, 青山学院大学(東京都、渋谷区), 2016
36. 大平澄佳・大江靖雄, 中国人旅行者の訪日回数と促進要因 - 日本のおもてなし要因を探る - , 日本観光学会第 109 回全国大会プログラム, 青山学院大学(東京都、渋谷区), 2016
37. 大江靖雄・Nicolas Peypoch, 旅館の経営効率性分析, 第 30 回総合観光学会全国研究大会, 帝京大学(東京都、八王子市), 2016
38. 大江靖雄, 我が国観光研究の国際化の課題と方向性 - 研究の国際化と若手研究者の成長をサポートできる学会へ - , 第 30 回総合観光学会全国研究大会, 帝京大学(東京都、八王子市), 2016
39. 大江靖雄・栗原伸一・霜浦森平, 食育ボランティア参加意思を規定する市民意識 松戸市を対象として , 平成 28 年度日本農業経営学会研究大会, 京都大学(京都府、京都市), 2016
40. 工藤亜希・大江靖雄, 震災被災地における宿泊業の復興と経営意欲に及ぼす要因分析 岩手

県・宮城県を対象として ,平成 28 年度日本農業経営学会研究大会,京都大学(京都府、京都市), 2016

41. 櫻井清一・石田貴士・大江靖雄,食品企業が取り組む社会貢献型 CSR 活動 食育に着目して ,平成 28 年度日本農業経営学会研究大会,京都大学(京都府、京都市), 2016
42. 近藤莉夏子・大江靖雄,スカイツリー周辺地域における飲食店の集客要因分析,第 66 回地域農林経済学会大会個別報告,近畿大学(大阪府、東大阪市), 2016
43. 佐藤龍一・大江靖雄,高齢者の買物環境と生活満足度 - 東京都多摩ニュータウンを対象として -,第 66 回地域農林経済学会大会個別報告,近畿大学(大阪府、東大阪市), 2016
44. 大江靖雄,酪農における教育体験サービス提供者のアイデンティティ形成要因,日本観光学会第 110 回全国大会,福知山公立大学(京都府、福知山市), 2016

〔図書〕(計 5 件)

1. Yasuo Ohe, WIT Press, Community-based tourism in rural Japan: Case of network making NPO, Sustainable Tourism VIII, 2018, 279
2. 大江靖雄編著,農林統計出版,都市農村交流の経済分析, 2017, 238
3. Yasuo Ohe, Heidelberg: Springer-Verlag GmbH,Resources, Tourism, Encyclopedia of Tourism 2016, 1168
4. Yasuo Ohe and Shinichi Kurihara, Cambridge Scholars Publishing, Determinant Factors of the Linkage between Local Brand Farm Products and Tourism: Quantitative Evidence from Rural Japan, Meeting Challenges for Rural Tourism through Co-Creation of Sustainable Tourist Experiences, 2016, 474
5. 大江靖雄,朝倉書店,日本と世界の農村ツーリズム事情,自然セラピーの科学 - 予防医学的効果の検証と解明 -, 2016, 219

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年:  
国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年:  
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名:

ローマ字氏名:

所属研究機関名:

部局名:

職名:

研究者番号(8桁):

(2)研究協力者

研究協力者氏名: アドリアーノ・チアニ, ニコラ・ペイポック

ローマ字氏名: Adriano Ciani, Nicolas Peypoch

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。